

資料 2

福祉環境委員会

(健 康 局)

令和 8 年 2 月 19 日

新西市民病院整備基本設計の策定

新西市民病院は、「市街地西部における急性期医療の中心的役割を担い、住みたくなるまちのシンボルとなる病院」を目指して再整備を進めており、このたび、基本設計を策定しました。

1. 基本設計の概要

(1) 設計概要

- ① 計画敷地：長田区若松公園の一部
(敷地面積：7,414.54 m²)
- ② 延床面積：38,868.22 m²
- ③ 病床数：358 床（現病院と同じ）
- ④ 規模構造：地上 9 階・塔屋 1 階・地下 2 階
鉄骨造
一部鉄骨鉄筋コンクリート造
(免震)
- ⑤ 駐車場：約 100 台



出典：国土地理院（地理院地図）の航空写真を加工

新病院完成予想図（若松公園南側からのイメージ）



©H/K2025

(2) 設計の基本方針

① 全ての利用者に優しい病院

- ・わかりやすい施設配置、移動負担の軽減に配慮
- ・プライバシーに配慮した安心・快適な療養環境、入出管理によるセキュリティ強化

② 安全で安心な災害に強い病院

- ・大地震時にも医療機能を継続できるよう免震構造と設備・インフラを整備
- ・新興感染症流行などに対しても柔軟に対応できる施設
- ・若松公園と病院の一体的な活用により、地域の災害対応機能を強化

③ 持続可能な病院

- ・省エネルギー、省資源、自然エネルギー活用に努め、地球温暖化防止と環境負荷を低減

④ まちづくりに貢献する病院

- ・健康増進につながる取組みが開催できる講堂を1階南側に配置
- ・鉄人28号モニュメントや公園と一体化した景観による、市民の憩いとにぎわいの場の創出

(参考) 外観・内観イメージ図



外観①（建物南東から北へ）



外観②（建物南から北東へ）



1階 医事・受付



2階 外来受付・待合



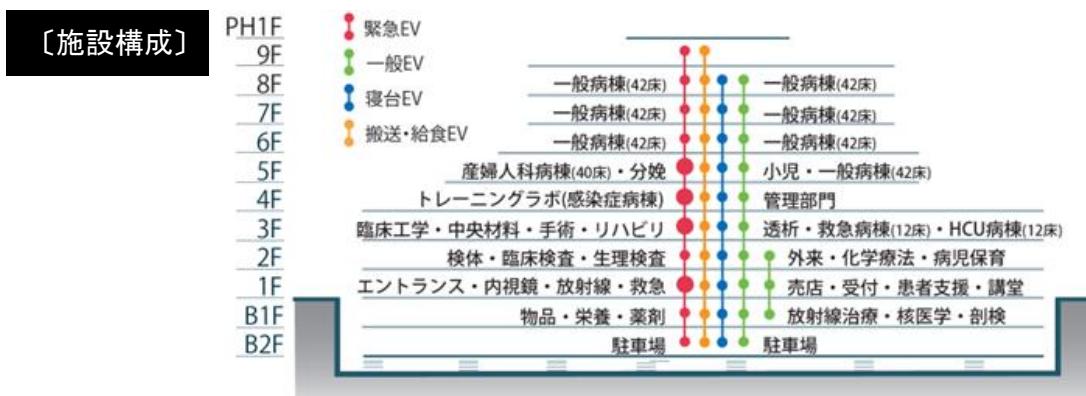
2階 待合スペース



2階 情報ラウンジ

(3) 施設構成

- 地下1階から3階に診療機能(外来、手術、放射線等)、4階に管理機能(事務、医局等)、5階から8階に入院機能を配置。複数のエレベーターで直結し、コンパクトで動線の短い施設構成とします。
- 1階(救急外来)と3階(手術)、4階(トレーニングラボ(臨時の感染症病棟))、5階(分娩)は、緊急エレベーターで直結し、緊急時の迅速搬送を可能にします。
- 病棟はワンフロア2病棟(1病棟42床)で構成します。
- 各階に休憩や会議ができるスタッフコアを配置し、多職種連携の促進を図ります。
- JR・地下鉄からのアクセスに配慮し、正面玄関は建物東側に配置します。
- 救急車両が北側道路から最短で直結できるよう、救急外来を建物北側に配置します。



(4) 新西市民病院の主な機能

救急医療の強化	・脳血管疾患・心血管疾患など、より高度な水準の2次救急に対応するため、救急外来を拡充(診察室6室⇒9室、処置室を整備)
高度な急性期医療の提供	・重症系病床を増床(HCU・救急病床:20床⇒24床) ・診療体制の充実に伴う手術室の増室(6室⇒8室)
がん診療の充実	・放射線治療や核医学検査に係る諸室を新設 ・外来化学療法室を拡充(治療ベッド9床⇒15床)
災害医療の強化	・免震構造を採用するとともに、公園と一体的な活動ができるよう、1階で負傷者の収容や治療等が可能な構造、設備を整備
感染症医療の強化	・新興感染症の感染拡大時に臨時の感染症病棟として転用可能なトレーニングラボを整備
療養環境の充実	・プライバシーに配慮した快適な療養環境の整備 ・入出管理によるセキュリティの強化 ・病棟中央にリハビリスペースを整備し、患者の状況に合わせたリハビリテーション環境を提供

2. 今後のスケジュール(予定)

令和8年3月：入札公告、住民説明会

令和8年度～：実施設計DB(デザインビルド)方式による整備

令和13年夏頃：開院

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
実施設計DB事業者選定		➡					
実施設計		➡					
建設工事			➡				
開院準備・開院						➡	開院

新西市民病院整備事業 基本設計概要

令和8年2月

地方独立行政法人 神戸市民病院機構



新病院外観のイメージ（南東側より）



低層部のイメージ（南側）



低層部のイメージ（南側）



1階 医事・受付イメージ



2階 情報ラウンジイメージ



2階 外来受付・待合イメージ

1 設計の基本方針

1. 全ての利用者に優しい病院

- ・患者本位で利用しやすく、快適に診断や治療、療養が受けられる病院づくりを目指します。
- ・すべての病院利用者にわかりやすい施設配置とともに、ユニバーサルデザインに配慮した施設の整備、移動負担の軽減に配慮した利便性の高い病院を目指します。
- ・プライバシーの確保に配慮した安心・快適な療養環境、入出管理によるセキュリティ強化を目指します。

2. 安全で安心な災害に強い病院

- ・神戸市災害対応病院として大地震時にも医療機能を継続できるよう免震構造を採用します。また、ライフラインの途絶時も医療機能を継続できる設備・インフラを備えます。
- ・日常的な感染対策が確実に履行できる施設整備とともに、新興感染症流行などに対しても柔軟に対応できる施設とします。
- ・大規模災害時に屋外緊急避難場所として指定されている若松公園と病院の一体的な活用により、新長田周辺の災害対応機能を強化します。

3. 持続可能な病院

- ・地域に求められる医療を次世代にわたり持続的に提供するために効率的な運用ができる施設・設備とします。
- ・地球温暖化防止と環境負荷低減を図り、省エネルギー、省資源、自然エネルギー活用に努め、「持続可能な病院」の実現に向けた取り組みを進めます。
- ・適正な施設規模でバランスの取れたイニシャルコストを目指し、ライフサイクルコストの縮減や新病院の効率的な運用計画に取り組み、経営安定化を図ります。

4. まちづくりに貢献する病院

- ・敷地内に市民が集える十分な広さのオープンスペースを整備します。また、健康増進につながる取り組みが開催できる場を新病院内に計画します。
- ・若松公園を含め、境界線を感じさせない一体的な外構・植栽計画で、まちに開かれたランドスケープを創出します。
- ・若松公園内の鉄人 28 号モニュメントの求心性にも配慮した植栽や歩行者動線計画で市民の憩いの場、賑わいの場を創出し、新病院と公園が一体となってまちのシンボルとなることを目指します。



まちと調和し、鉄人と共にシンボルとなるランドマークを創出（南東鳥瞰）

2 計画概要・配置計画・施設構成

■ 敷地概要

- 所在地：神戸市長田区若松町6丁目日吉町1丁目
- 敷地面積：7,414.54 m²
- 前面道路：北側 市道国鉄沿長田須磨線 幅員15m
西側 市道大橋10号線 幅員8m
市道大橋5号線 幅員13m



■ 建物概要

- 主要用途：病院（358床）
※感染拡大時の感染症病棟（16床）は含まず
 - 延床面積：38,868.22 m²
 - 建築面積：5,465.97 m²
 - 規模構造：地上9階 塔屋1階 地下2階
鉄骨造一部鉄骨鉄筋コンクリート造（免震）
 - 地業：直接基礎
 - 建物高さ：45.77m
 - 駐車場：約100台
 - 駐輪場：約70台
- （延床面積や建物高さ等は今後の実施設計により変更となる可能性があります）

■ 建物配置計画

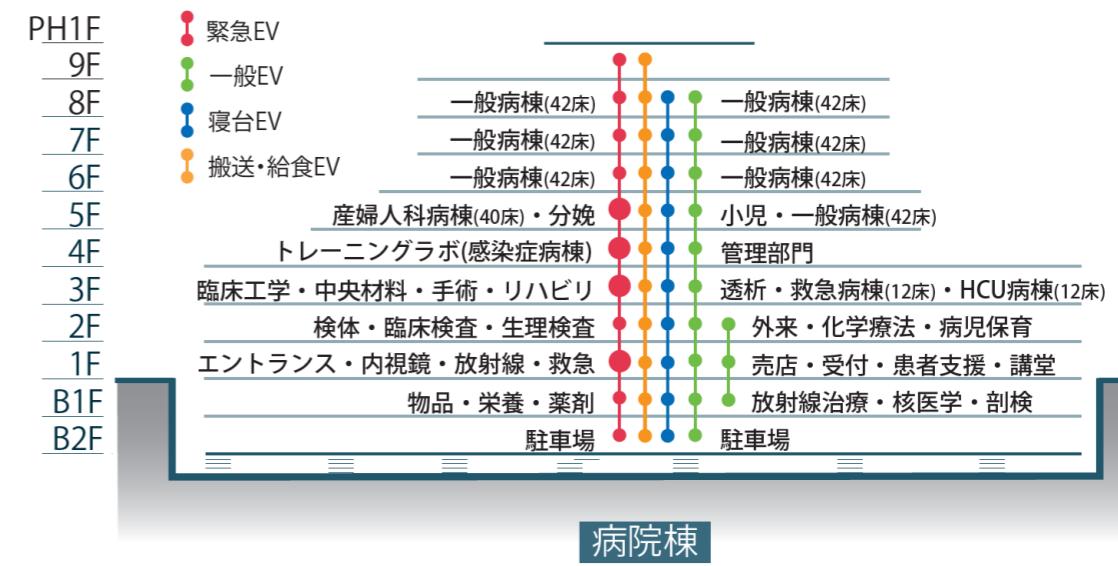
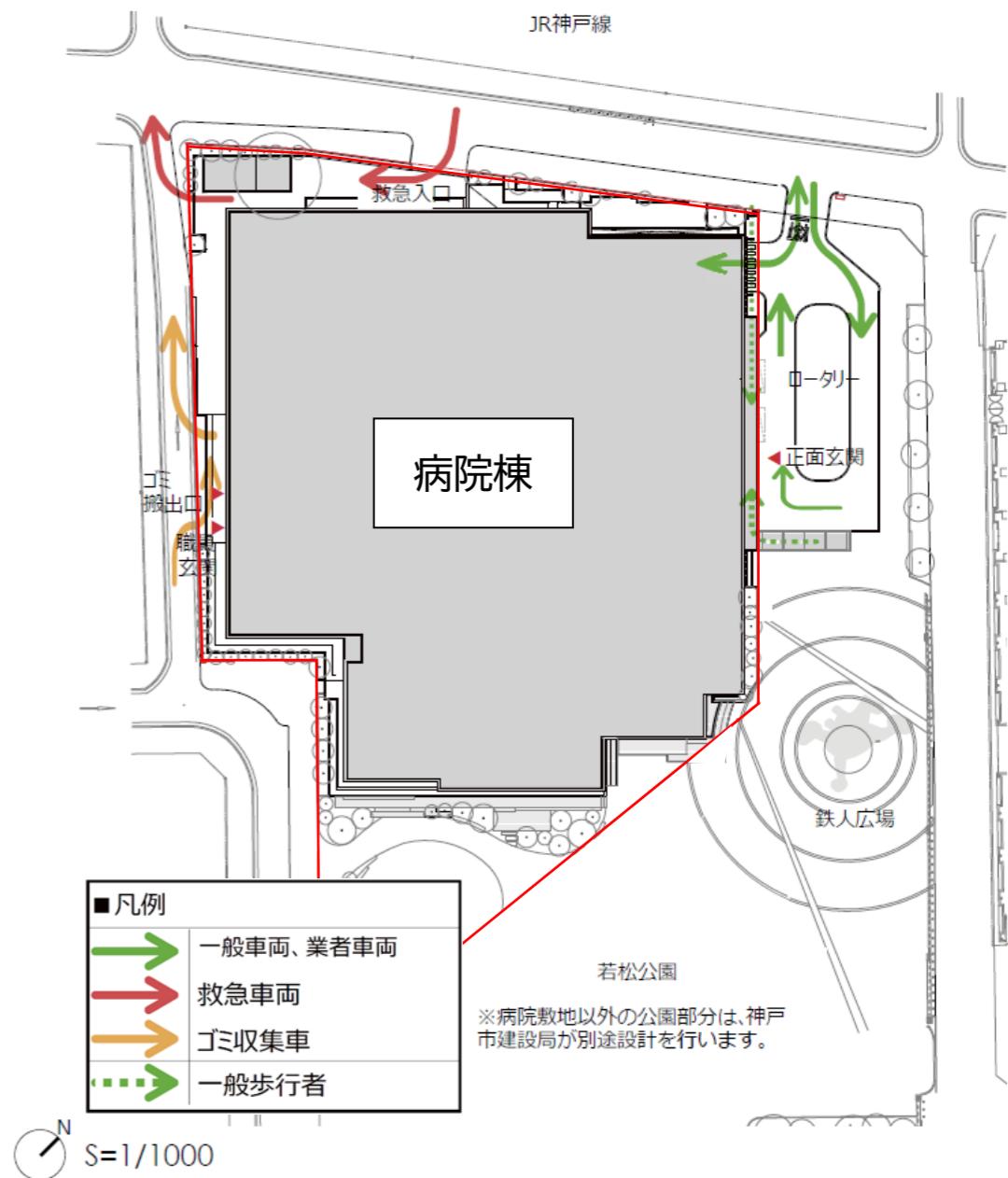
- 鉄人28号モニュメントのある若松公園に隣接する病院として、まちと調和する敷地利用計画を目指します。建物高さを極力抑え、基壇となる低層部ボリュームを周辺施設と揃えることで、まち全体として一体感ある景観デザインとします。
- 病院棟は敷地北側に配置し、JR・地下鉄からのアクセスに配慮します。病院棟玄関は、公園内ロータリーを供用することや周辺の歩行者の流れを考慮し、東側に計画します。
- 病院棟の高層部分は極力東側へ配置し、西側集合住宅との距離を最大限確保します。また、病院棟の西側低層部分は窓配置を最小化し、集合住宅との対面を極力回避します。
- 若松公園側に向けて緑地帯や歩行者通り抜け通路、芝生広場を確保し、公園との境界を感じさせないランドスケープを計画します。また病院棟はアースカラーを基調とした自然な色合いの外装とし、公園と調和する温かみのある外観デザインとします。

■ 外部動線計画

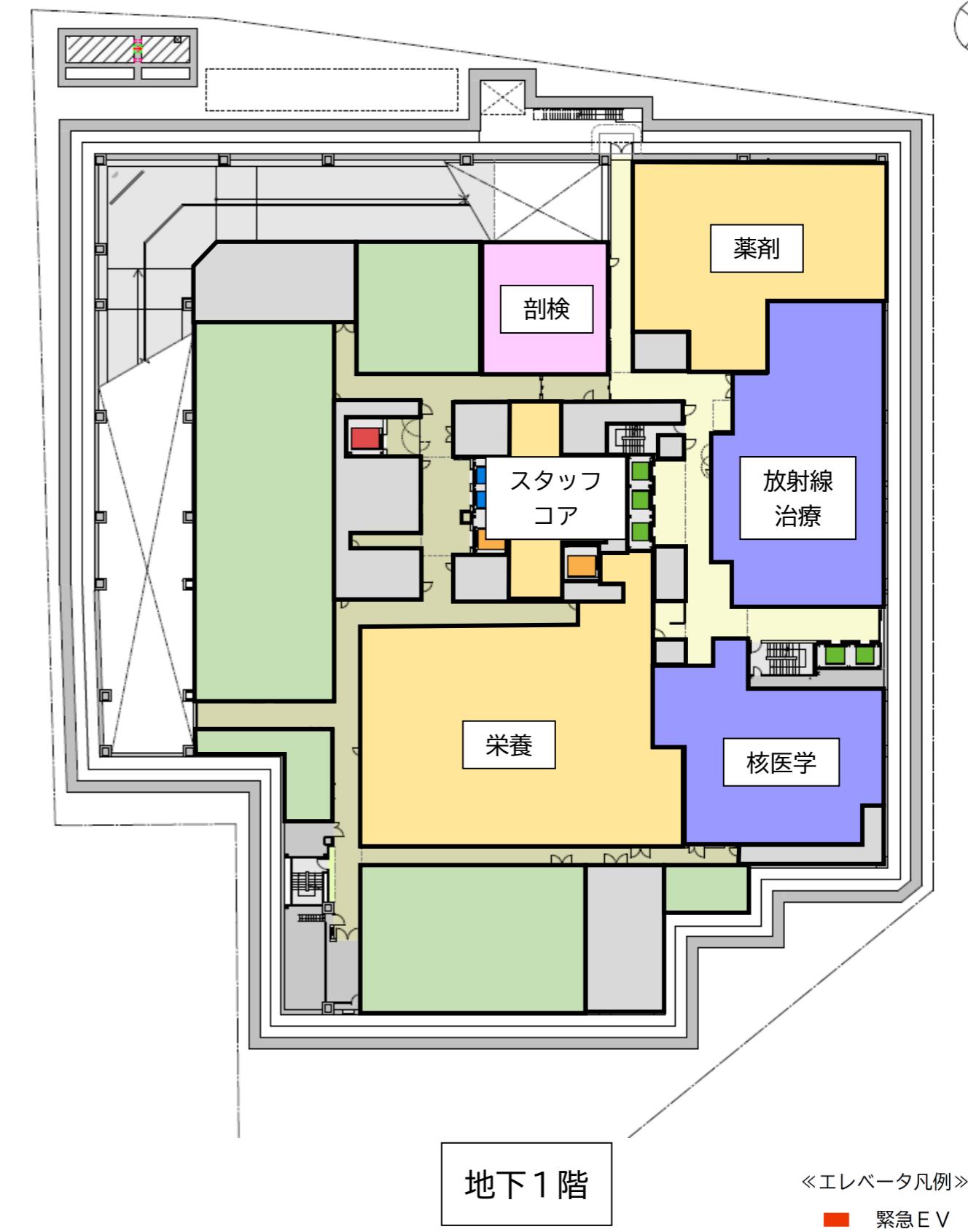
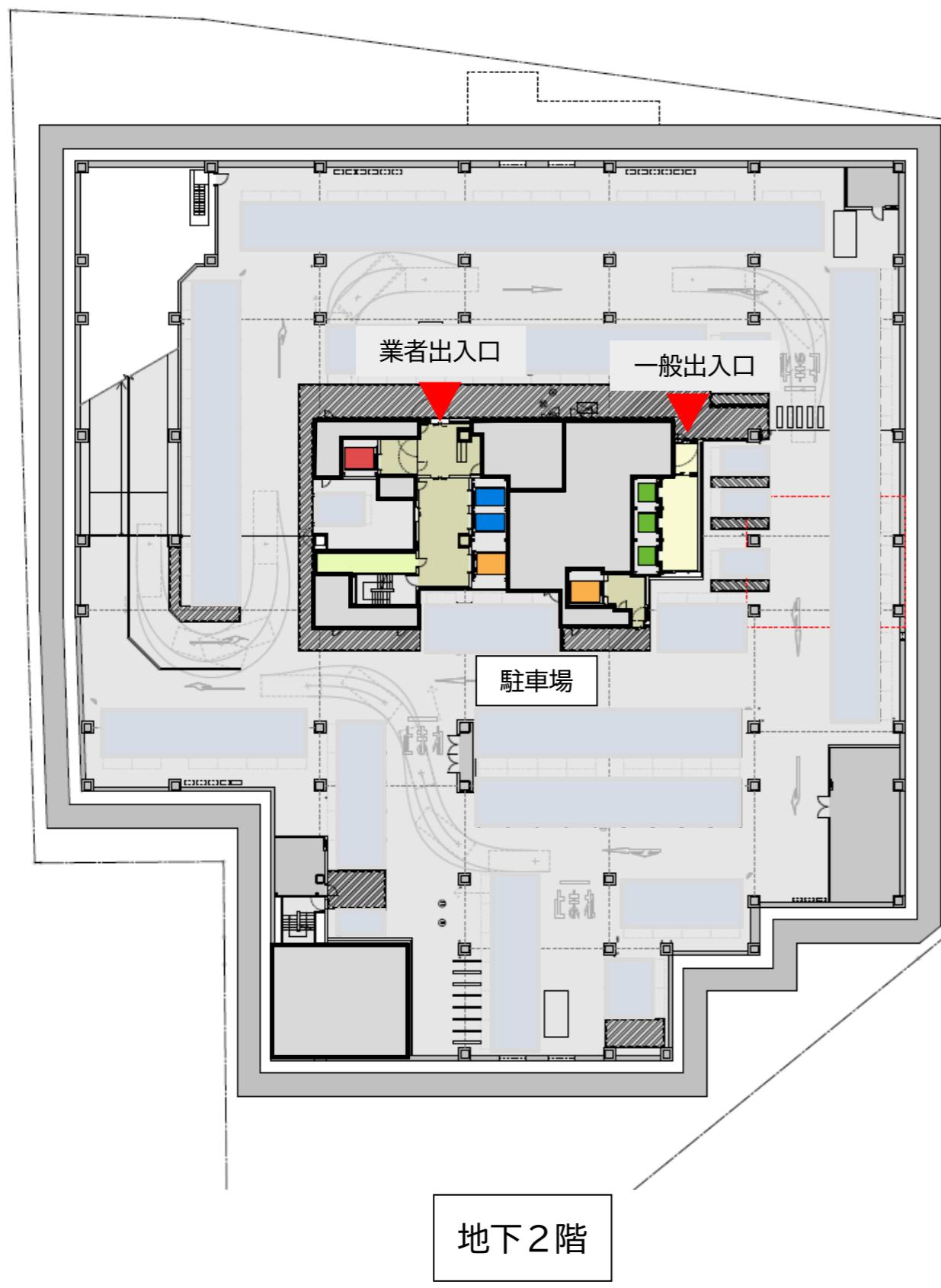
- 車両アプローチは主に北側道路側からとし、西側道路の交通環境に配慮します。
- 駐車場への動線は、公園ロータリーを利用する車両動線と切り分け、スマーズに病院棟地下駐車場へ誘導します。業者車両も一般車両と同一動線とし、救急車両動線との交錯を回避します。
- 病院棟正面玄関には、車寄せ屋根の他、乗降庇を設け、雨天時も快適に乗降できるスペースを確保します。
- 救急車両は北側道路から最短で救急外来に直結し、複数台が停車できる車寄せを整備します。
- 歩行者動線はロータリー周囲に確保し、車両・歩行者双方の安全性・利便性を配慮します。

■ 施設構成

- 地下1階から3階に診療機能（外来、手術、放射線等）、4階に管理機能（事務、医局等）、5階から8階に入院機能を配置します。関連部門を複数のエレベーターで直結し、コンパクトで動線の短い施設構成とします。
- 病棟はワンフロア2病棟（1病棟42床）で構成します。
- 1階救急外来と3階手術、4階トレーニングラボ（臨時の感染症病棟）、5階分娩は緊急エレベーターで直結し、緊急時の迅速搬送を可能にします。
- 機械搬送設備を適所に配置し、物流搬送業務を効率化することで、スタッフのより良い労働環境を実現します。
- 各階に休憩や会議ができる「スタッフコア」を計画します。偶発的に生まれるコミュニケーションを含め、多職種連携の促進を図ります。
- 病院入口や来院者が集まる待合やラウンジの内装に、地域産木材を積極的に活用します。



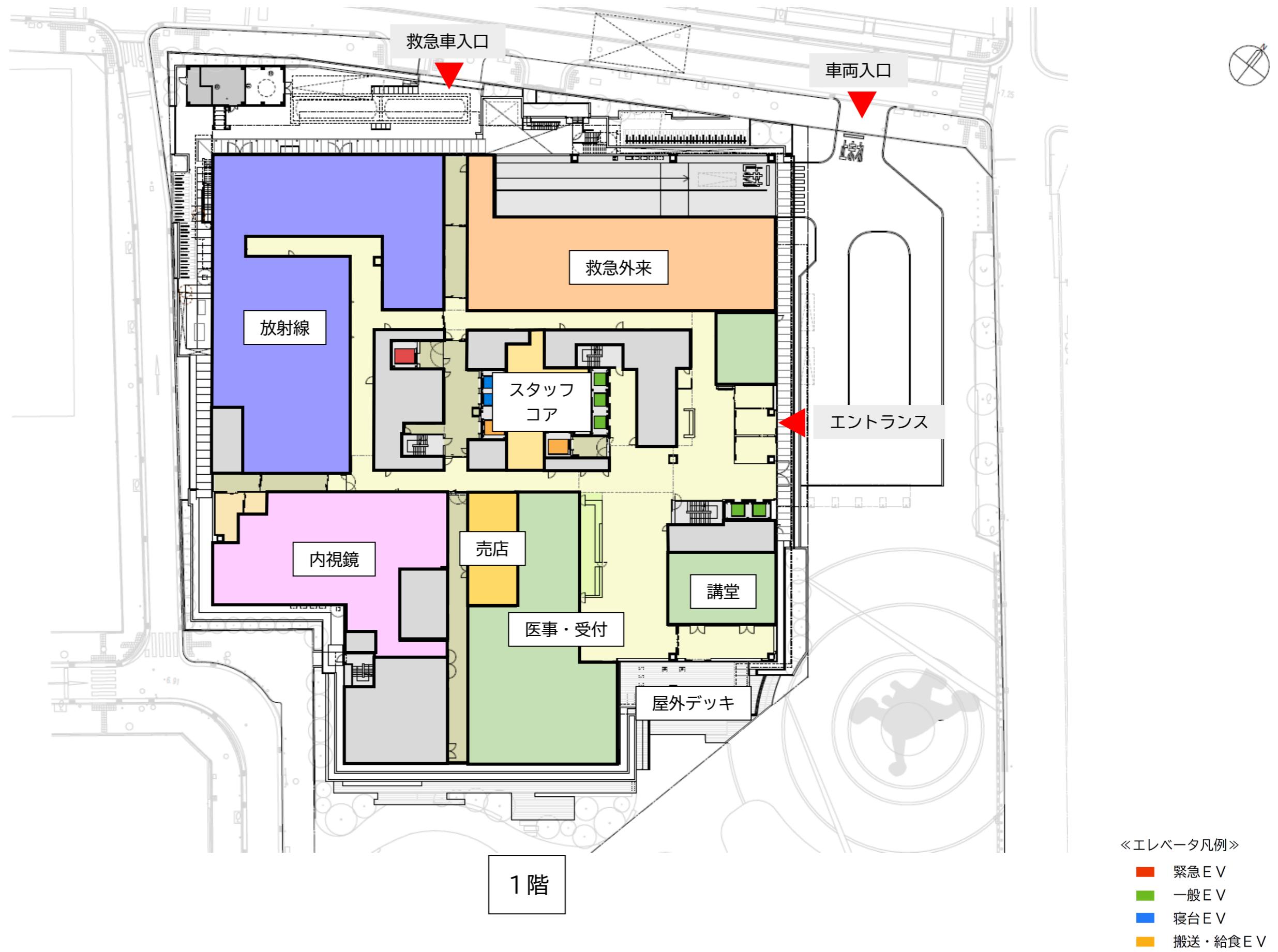
3 平面計画



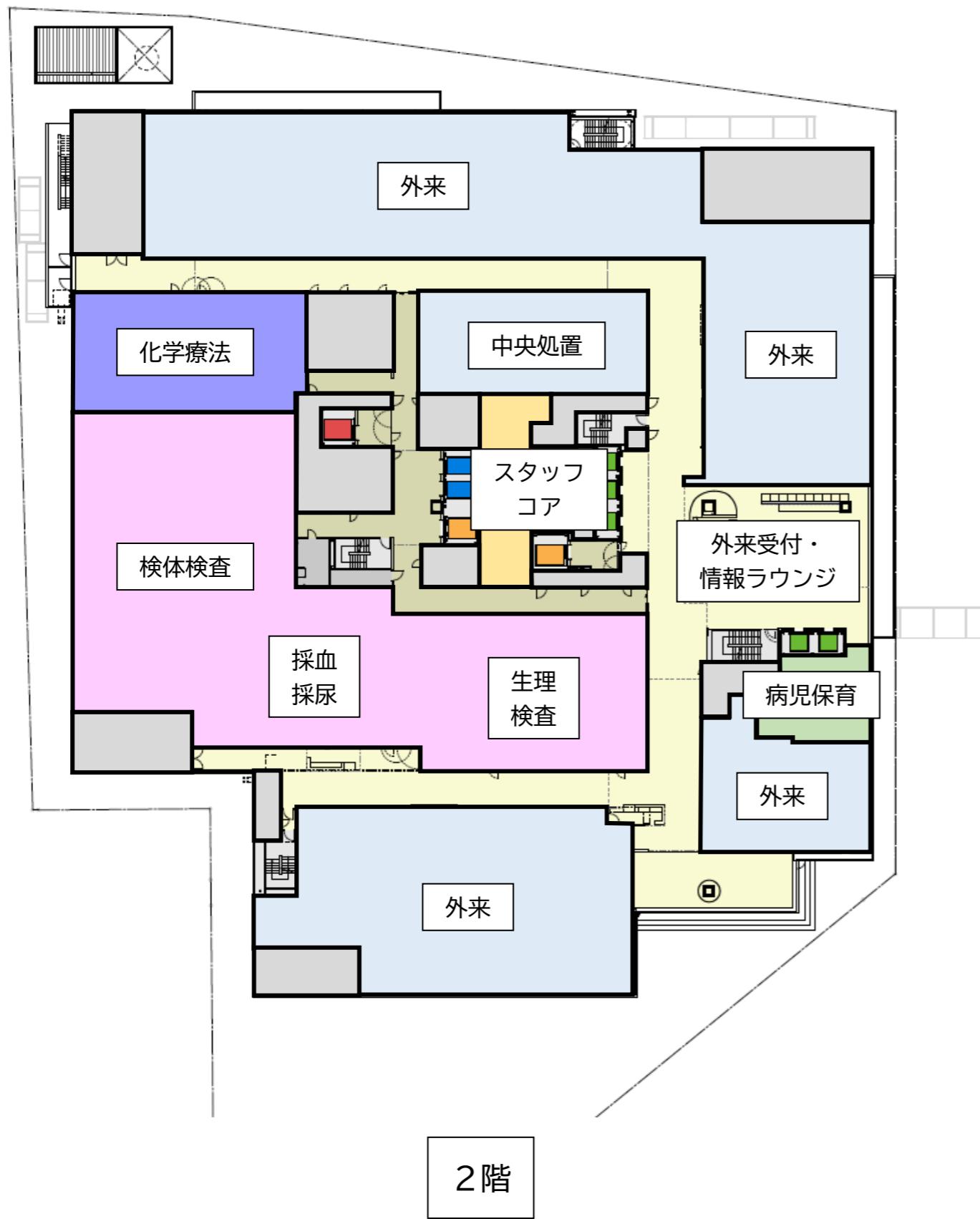
«エレベータ凡例»

- 緊急EV
- 一般EV
- 寝台EV
- 搬送・給食EV

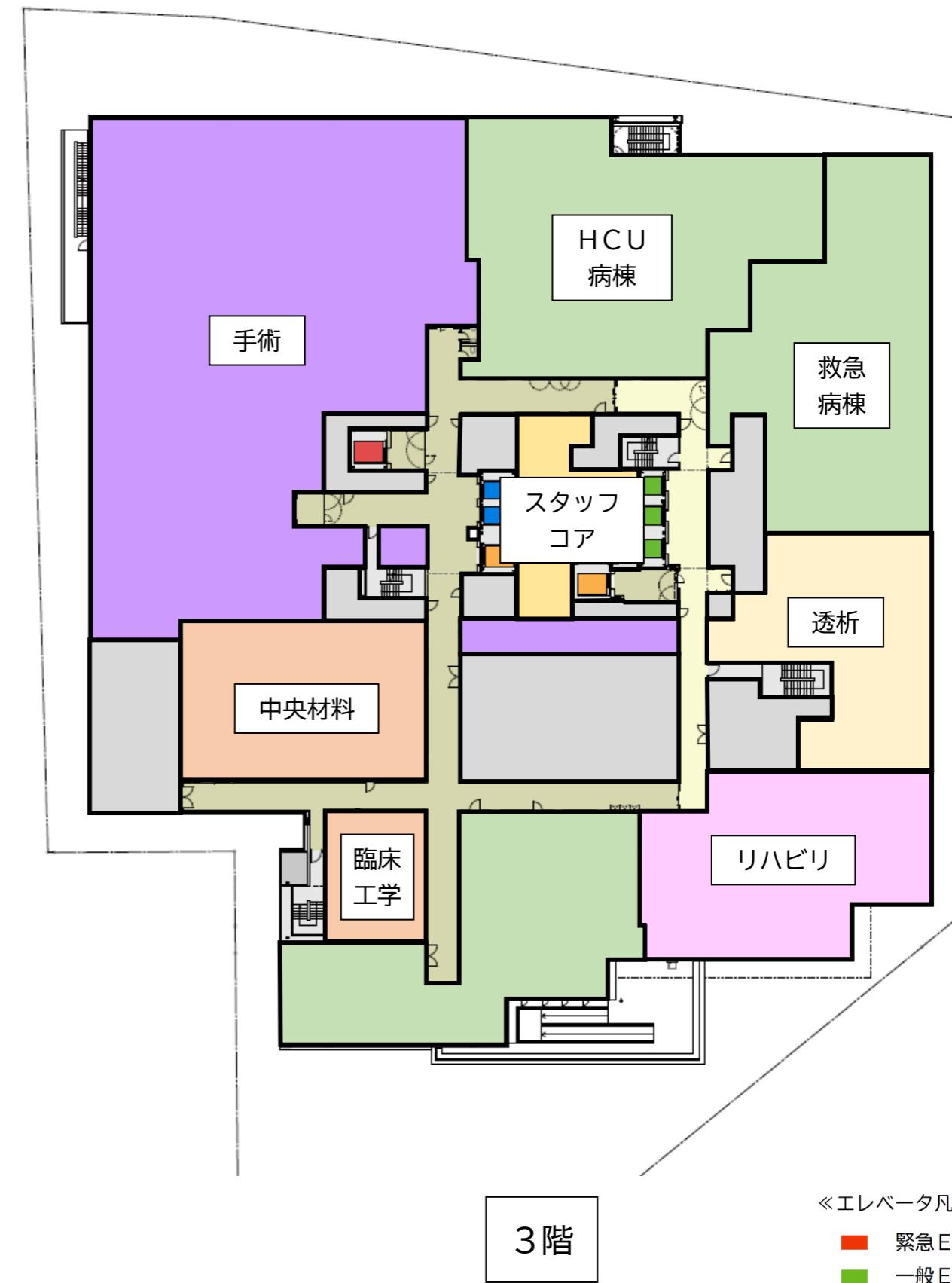
3 平面計画



3 平面計画



2階

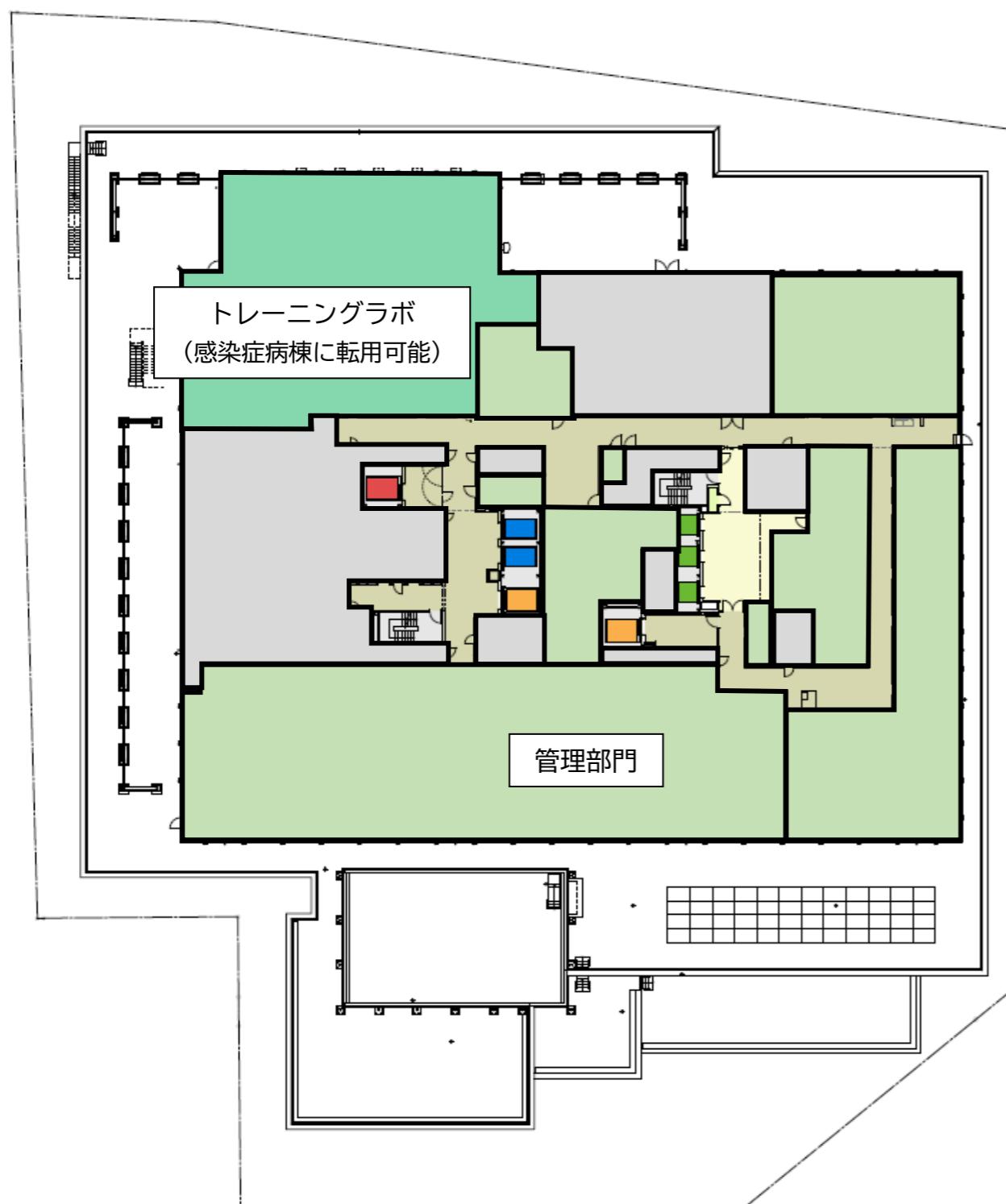


3階

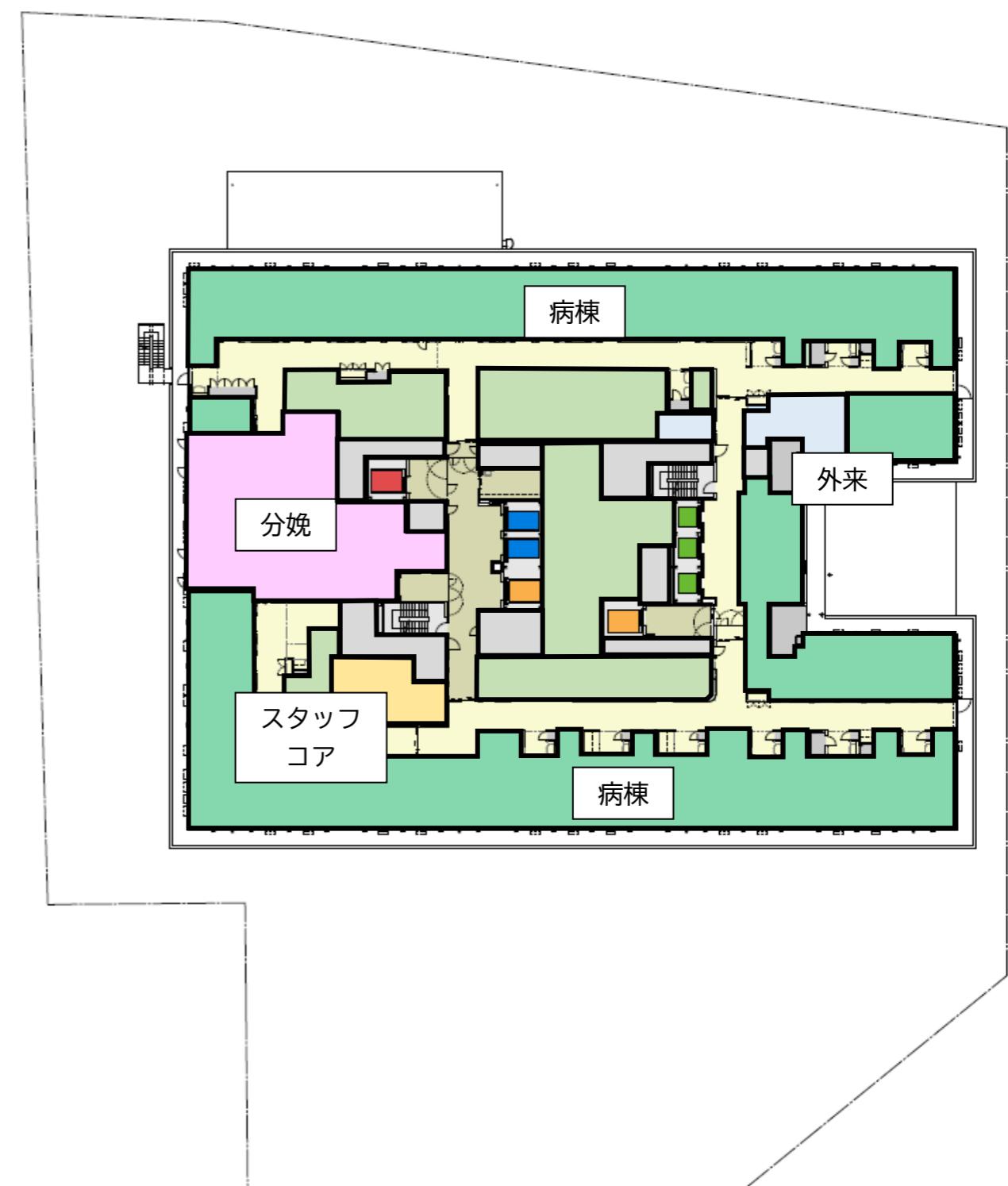
«エレベータ凡例»

- 緊急EV
- 一般EV
- 寝台EV
- 搬送・給食EV

3 平面計画



4階

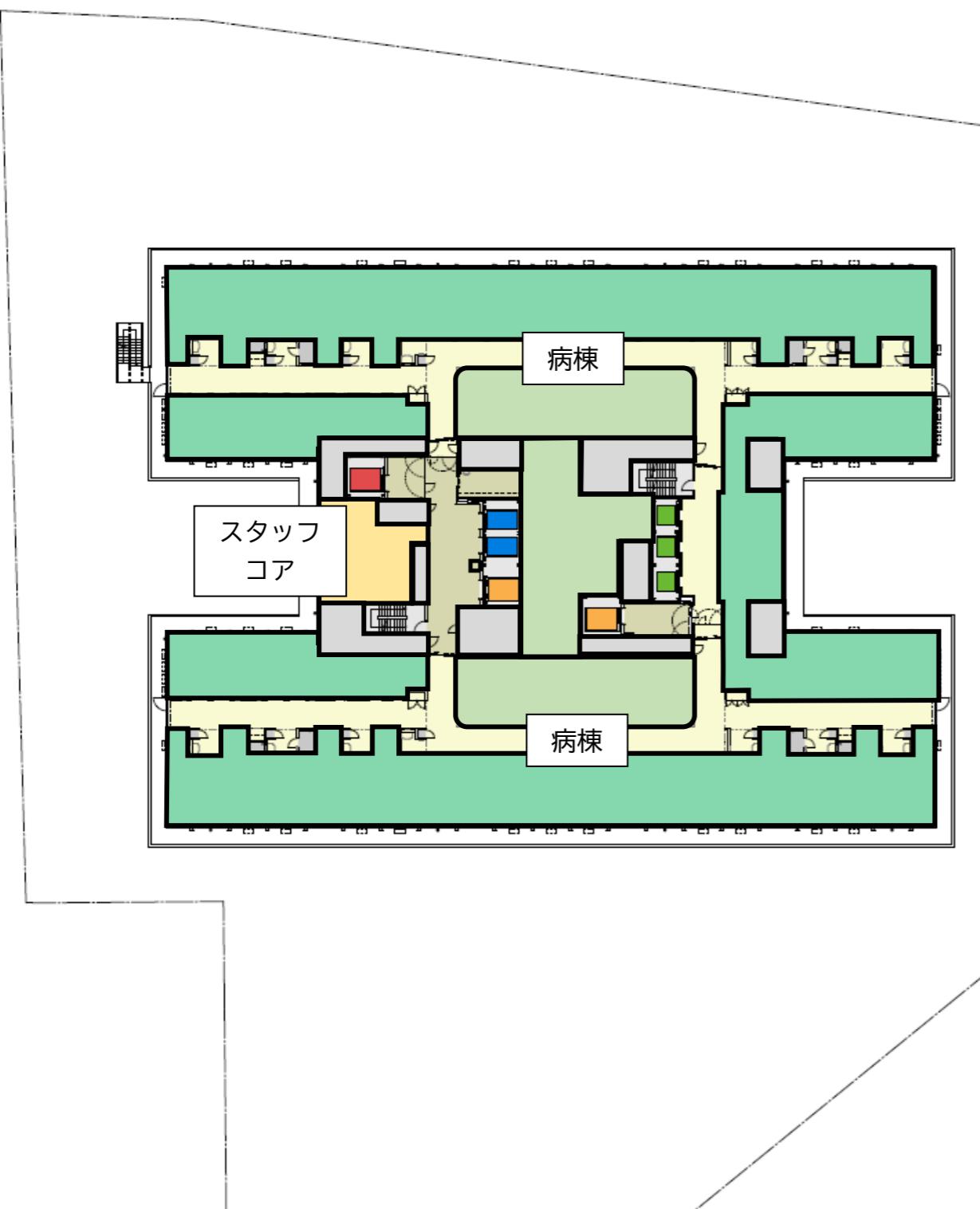


5階

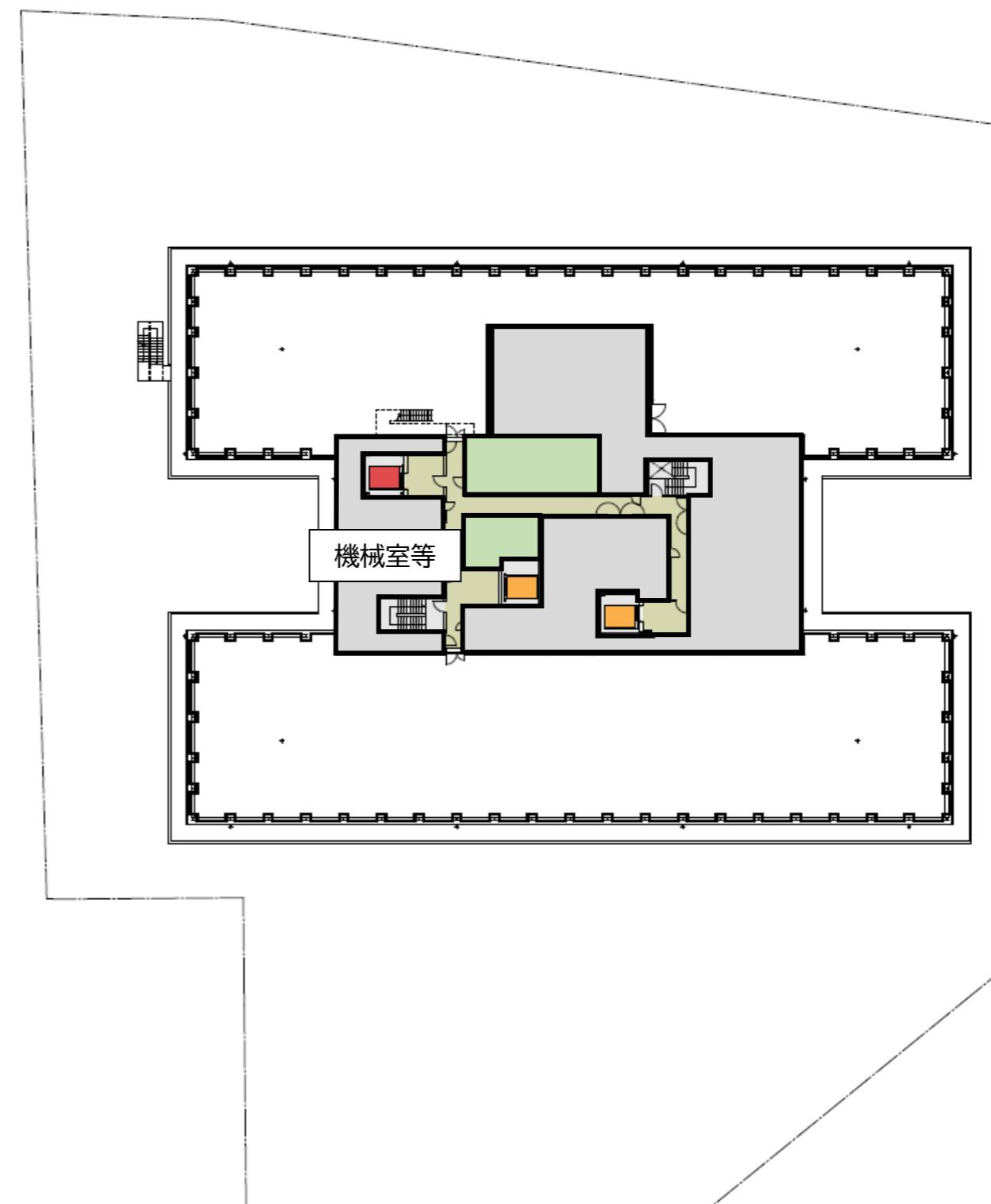
«エレベータ凡例»

- 緊急EV
- 一般EV
- 寝台EV
- 搬送・給食EV

3 平面計画



6~8階



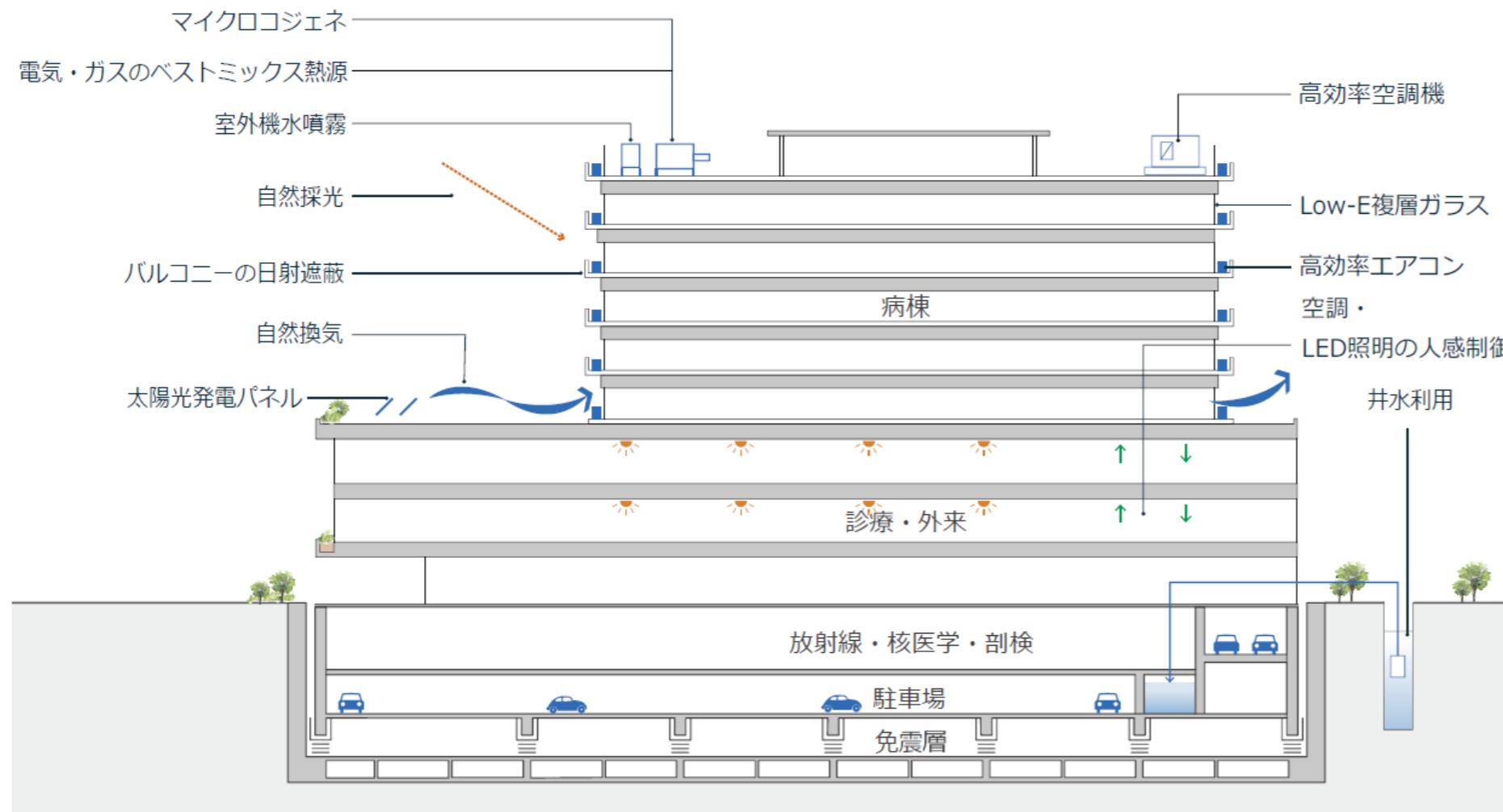
9階

- «エレベータ凡例»
- 緊急EV
 - 一般EV
 - 寝台EV
 - 搬送・給食EV

4 環境配慮計画

■ 基本方針

- ・脱炭素社会の実現に向けた取り組みとして、ZEB Oriented^(※)を目指します。
- ・ライフサイクルコストのバランスを考慮し、建物への熱負荷低減や自然エネルギーの活用、高効率設備の採用など、環境に配慮した計画とします。



(※) ZEB (Net Zero Energy Building) とは、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギー収支をゼロにすることを目指した建物のこと。
用途ごとに規定された一次エネルギー消費量の削減目標（病院等の場合は30%以上）を達成し、さらに未評価技術の導入などによる省エネを図る建物を「ZEB Oriented」と呼ぶ。

5 事業スケジュール（予定）

令和8年度より、実施設計DB（デザインビルド）方式による整備を進め、令和13年度夏頃の開院を目指します。

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
実施設計DB事業者選定		➡					
実施設計		➡					
建設工事			➡				
開院準備・開院						➡ 開院	

※本資料は基本設計内容をまとめたものであり、今後実施設計・施工の進捗により内容が変更となる可能性があります。